

薫 嶺



一年間のPTA活動を ふり返って



PTA会長

加藤 道生

会員の皆様には、伊那北高校PTA活動に對しまして、多大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様のおかげで、今年度も行事一つひとつ無事終えることができました。校長先生をはじめ、先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

今年のPTAスローガンは、「二人ひとりに無限のエネルギーを。子供たちが自立していく過程で、我々親の立場としてできることは、子供達を精一杯応援してあげること。親としても充実した日々となるように、今年一年、一生懸命子供達にエネルギーを送り続けていきたい。そんな気持ちで、このスローガンに込めました。

地域のコミュニティがそのまま通学区である小中学校とは違い、高校は通学区が伊那谷一円へと一気に広がり、PTA会員同士の関わりが薄くなってしまおうという旨、前号の「薫嶺」の中で述べました。しかし、クリーンアップ作戦、カルチャー講座、合唱コンクールなど、行事や練習が始まった当初と、終わりの会におけるみなさんの表情や様子を比べると、こうした一つひとつの活動の持つ意味や意義を強く感じました。

この一年、PTAの立場で、薫が丘の学び舎に足を運んだわけですが、普段の生活の中では感じるものがなかったであろう、「初心」を思い出すことができました。普段の生活の中で敷地に入ると、不思議と、自分が高校生だった頃の気持ちやよみがえりました。まだ、いろんな意味で未熟であったし、希望もあつたし、不安もあつたし……。伊那北高校に通う生徒さんたちには、ぜひ失敗を恐れず、何事にも思い切り挑戦し、みずから未来を切り拓いていってほしいと願うばかりです。

PTA合唱で歌った「群青」という曲。

「またね」と手を振るけど
明日も会えるのかな
遠ざかる 君の笑顔今でも忘れない

この部分は、男声を受け持つパッセージで、気持ちが乗り、本当に気持ちよく歌えました。今、まさにこの歌詞のような気持ちです。一年間、大変お世話になりました。



文化・教養委員長 大日方 絵里香

文化教養委員会の行う活動は、PTAカルチャー講座とPTA合唱の二つです。

カルチャー講座では、地域やOBの皆様に講師としておいで頂き、百数名の保護者の方々にご参加頂いての講座開講でした。

PTA合唱では、音楽の兒玉智紀先生に選曲からご指導の全てをお願いし、音楽部の皆様のお力をお借りして一つのステージを作り上げる感動を味わいました。

思い返すと、この活動があつたからこそ出逢えた方々との交流が心を温めてくれます。

頼りない委員長でしたが、ご担当下さった有賀智秀先生を始め先生方、積極的に活動を支えて下さった委員の皆様のお力で行事を無事終える事ができました事、心より感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

施設・厚生委員長 吉岡 富士夫

六月と十月、今年度のクリーンアップ作業を無事終えることができました。参加していただいた保護者の皆様はもちろん、準備段階から御苦労いただいた委員の皆様、そして先生方に感謝申し上げます。

縁あつてこの活動に自分も参加することができて多少なりとも御世話になつている学校への恩返しができたような気がしています。

二回の作業を通じて感じたことは、学校の美化という目的のみならず、中学校までの親の学校に対する係わり方が少し少ない中での貴重な時間を過ごすことができたということ。普段あまり顔を合わせない保護者の方同士のコミュニケーションもとれたことでしょう。

これからもこの伝統が長く続いて行きますよう、皆様の御協力をお願い申し上げます。

生活指導委員長 寺澤 美智代

地区役員と共に生活指導委員長を仰せつかり戸惑いながらもスタートでしたが、無事一年間の活動を終えることができそうで有難く思っております。

生活指導委員会の活動は、地区懇談会の計画・進行、総会やPTAカルチャー講座・合唱コンクールの駐車場誘導作業、強歩大会交通指導などがあり、どの活動も各地区代表の委員の方のご協力により分担して行うことができました。又、その都度先生方が準備・説明等丁寧にして下さり、活動しやすく、大変感謝しております。

強歩大会においては、秋雨の続く中、ちょうど秋晴れの気持ちの良い日に実行され、生徒たちの一生懸命走る姿や楽しんで走る姿を見て、爽やかな気持ちになり、応援しながら見守らせていただきました。

日頃行事の度に陰で活動してくださっている方がいるのだと改めて知ることができ、本年度は少しお手伝いできたこと、生徒や他地区の保護者とも触れ合えたこと、大変良い経験になりました。

一年間、先生方や委員の皆様のおかげでいただき、保護者の皆様にもご協力いただきましたこと、心より感謝しております。お世話になりました。ありがとうございました。

広報委員長 原 陽子

委員の皆様と先生方のご協力を頂いて、無事に「薫嶺」一四二号、一四三号を発行することが出来ました。

広報委員会では「薫嶺」発行に向けて、いろいろな行事で活躍する伊那北生、PTA活動での保護者の方々の姿を、より多くご紹介できるように取材活動、編集等を行ってきました。委員の皆様や担当の先生には、忙しい時間の中で活動していただき、心より感謝申し上げます。

至らない委員長ではありましたが、委員会活動に参加させて頂いたことで、PTAの活動や学校のことを、今までより知ることが出来た事は、とても良かったと思っています。

一年間ありがとうございました。



9月6日(木)



学校合唱コンクール



銀賞 3D



於:伊那文化会館





第51回 伊那北高等

第51回 伊那北高等学校合唱

銀賞 3F



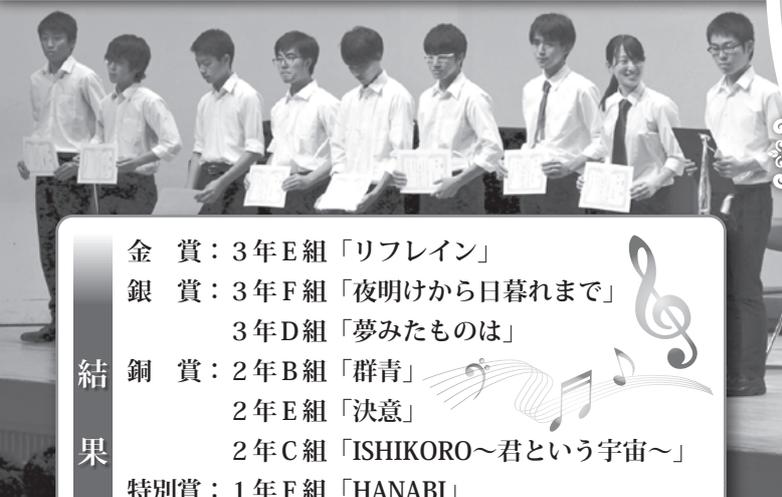
ベストピアニスト



金賞 3E



ベストコンダクター



結
果

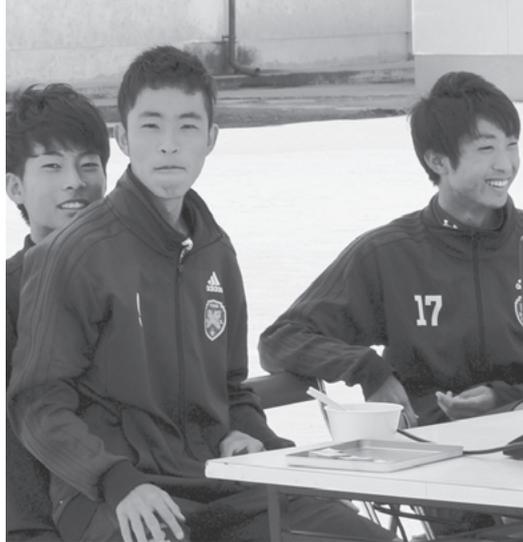
- 金賞：3年E組「リフレイン」
- 銀賞：3年F組「夜明けから日暮れまで」
3年D組「夢みたものは」
- 銅賞：2年B組「群青」
2年E組「決意」
2年C組「ISHIKORO～君という宇宙～」
- 特別賞：1年F組「HANABI」
- ベストコンダクター：3年E組 加藤 聡
- ベストピアニスト：1年F組 唐澤 佳汰



第53回 24.7km 強歩大会

9月28日(金)



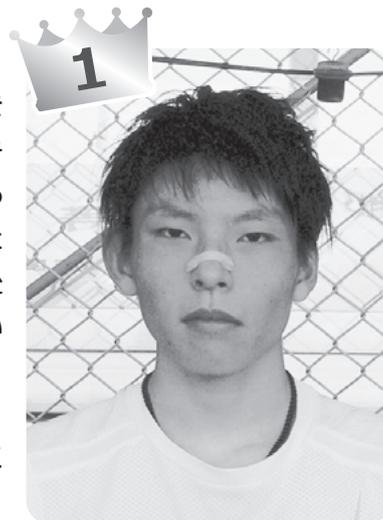


前を走る人をおいかけ
て、ついて行きました。だ
んだん人がいなくなって
…とにかく走りました。



女子1位 中林 知紗さん(3-F)

今年も優勝することを
目標に走りました。20キ
ロ地点まで昨年を上回る
ペースで走れていました
が両足が痙攣を起こし後
続に追い付かれてしまい
苦しいレース展開でした。
ですが最後は競り勝ち、
タイムも昨年を上回ること
ができてよかったです。



男子1位 清水 龍斗君(3-A)



女子3位 小林 愛さん(1-F)



女子2位 金森 佑奈さん(3-E)



男子3位 松見 湊太君(3-E)



男子2位 酒井 龍一君(3-C)

女子上位者					男子上位者				
5位	4位	3位	2位	1位	5位	4位	3位	2位	1位
草場 日和	濱嶋真千子	小林 愛	金森 佑奈	中林 知紗	宮崎 佑真	牧島 駿太	松見 湊太	酒井 龍一	清水 龍斗
2時間28分12秒 (2E)	2時間22分22秒 (1A)	2時間20分53秒 (1F)	2時間20分30秒 (3E)	2時間14分50秒 (3F)	1時間48分11秒 (2D)	1時間47分51秒 (1D)	1時間41分03秒 (3E)	1時間39分08秒 (3C)	1時間39分07秒 (3A)

10月13日(土)

委員長より
作業の説明

施設:厚生委員長
吉岡さん

2・3学年PTA

秋季クリーニングアップ

10月13日(土)に2・3年生保護者113名が参加し、学校をきれいにしました。
秋晴れの中、手際よい作業により、予定より早く終わらせることができました。





秋期クロスペンアカデミー

内田 美智子氏 講演会

演題「いのちをいただいて、つないでいくこと」
～いずれ一人で生きていく君たちへ～

プロフィール

- 1957年 大分県竹田市出身
- 1979年 国立熊本病院附属看護学校卒業
- 1980年 国立小倉病院附属看護助産学校助産師科卒業
福岡赤十字病院産科勤務
- 1988年 福岡県行橋市に帰省
内田産婦人科医院を産婦人科医の夫とともに継承
- 2004年 九州思春期研究会設立 事務局長
文科省委嘱 福岡県性教育実践調査研究事業委員(2006年3月まで)
- 2008年 福岡県社会教育委員(2009年3月まで)
福岡県家庭教育アドバイザー
現在に至る



内田 美智子氏
(助産師、思春期保健相談士)

生徒の感想

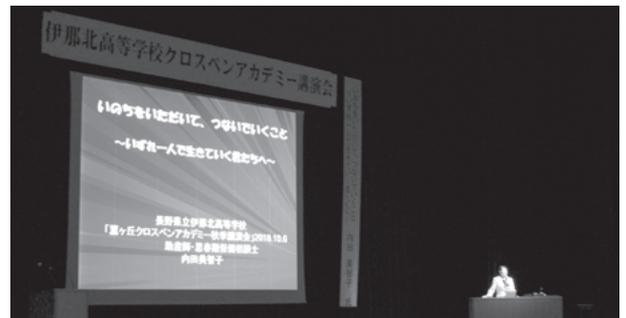
世界の同世代の子供たちの状況を聞いて、日本では考えられないことがたくさん起きていることに驚いた。平和な国に生まれたことは、とても感謝するべきだと思った。教育を受けさせてもらえて、自分で人生を決めていけることは幸せだと思った。私の同世代の人たちの助けになることが何かあったらしたいと思った。私一人でできることは少ないかもしれないけれど、小さなことから実践してみようと思った。自分を強く持って生きていきたいと思った。

生徒の感想

この講演で、家族にどれだけ支えられているかを感じることができた。口をきかなかったり親を責めたりしても、弁当を作ってくれたり、洗濯をしたりしてくれて、いつも自分を支えてくれていたことに気付いた。24時間の中でどれだけ自分を支えていけるか、どれだけ時間を有意義に過ごせるかしっかり考えて、今という時間を一生懸命過ごしたい。そして将来周りを支えていける存在であるよう努力したい。こんなに、心動かされた講演は初めてです。本当にありがとうございました。

保護者の感想

生きるという意味を改めて考えさせられました。生きている、生まれてきたことがどれほどの“キセキ”であるかを子供たち、親に伝えて下さり、私も今も親であります。子供を授かった“キセキ”の原点に戻してもらった気がします。スライド泣けました。



薫ヶ丘クロスペンアカデミー (Cross Pen Academy)

平成15(2003)年度、学校5日制に伴い、土曜日の有効活用の一つとして「薫ヶ丘クロスペンアカデミー」が、同窓会・PTA・学校の共催により始まる。学問(知)へのインセンティブをもたらす事、及び学力の向上を図るための講座・講習・研修を実施している。

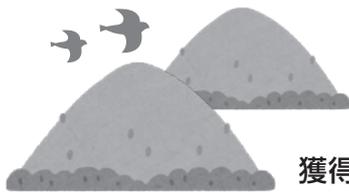
「地方」から見えるもの

講師 毛賀澤 明宏氏

株式会社産直新聞社 社長
「信大 NOW」編集スタッフ
伊那北高等学校第29回卒業



地域での活動を通して得た社会状況等の分析を分かりやすくお話しをしていただきました。



「地方」「地域」と中央



獲得するべきは「国」や「社会」や「世界」を見通し、それを動かすことのできる考え方や人とのつながりネットワークだ

そのためには

- 「中央」「世界」を視野に考えなければ、「地方」「地域」の問題を本質的に解決できない
- 「辺境」には時代や社会の特徴が集約される
時代や社会を変える力は「辺境」＝「地方」「地域」から生まれる
- 「辺境」にいる宝物のような人たち ここにスポットを当てる・学ぶ



ブームとしての「地域づくり」「地域貢献」に終わらせてはいけない

自立・自律・自治

- 何から始めるか?いまの・私の・意志を表明すること 表明しなければ気づきや反省もない
- この環境・条件と、私(私たち)との適合矛盾を表明することから一歩が始まる
- なぜ大学に進学するのか?目標を持つことが大切

自分の意志表示が出来る人間でありたい



Memo

PTS (Parent Teacher Student)

昭和45(1970)年以來の伝統行事である生徒、保護者、先生三者による合同活動。2学年は進路講演会が行われ、生徒と共に保護者も熱心に聞き入った。

こんにちは先輩

～11分野の方から進路・
生き方を学びました～



行政(保健師): 少子高齢化
社会を見据えた福祉とは?



地方議会: ふるさとで村長
を目指す若き村議会議員



豆腐屋: 生徒会長、東大、
脱サラを経て現在の職業に
従事 その思いとは?



JICA: 国際開発理解をこの
上伊那から



NPO森の座: 伊那谷の山々
を守る奮闘とその想い



ざんざ亭: シビエ料理を通し
て地域課題のビジネス化



KOA(株): 企業内の採用・
人材育成を通して社会貢献



行政: 発想の転換、景観の
よいところでオープンカフェ



行政: 20年後の地域作りを
目指して新しい女性の働き
方を提案



フリーランス: 東京⇔辰野
建築士 兼 辰野集落支援と
して



裁判官: 法曹の立場から見る現在の社会
裁判所から4名の先輩の皆さん



先輩の質問にも積極的に答えます



真剣そのもの!



質問させて
ください!



裁判官の衣装を着させていただきました!
気分は裁判官であります!



Memo

PTS (Parent Teacher Student)

昭和45(1970)年以來の伝統行事である生徒、保護者、先生三者による合同活動。1学年は、地域で活躍する11分野の方を招いて、保護者も参加して講演会を行った。

活躍する伊那北生

フェンシング部

国民体育大会 (福井県)

【2A 林菜々海 2C 小林聖矢 2E 宮下水稀 1E 原ななみ】

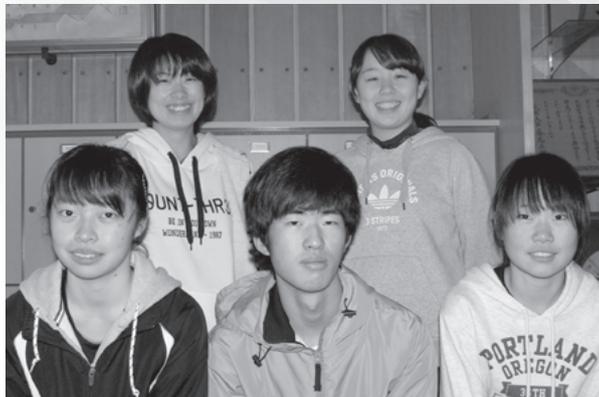
全日本選手権

個人戦女子フルーレ(東京)

【2E 宮下水稀】

団体戦(女子)(茨城県)

【2A 林菜々海 2E 宮下水稀 1E 原ななみ 1E 登内桃香】



2E 宮下水稀

9月28日から10月3日の6日間に渡り、フェンシング部から男子一名、女子三名が福井県で行われた国体に出場してきました。とても貴重な経験になったのと同時にたくさんの課題も見えたので、今後に生かし強くなりたいです。

また、全日本選手権でもしっかり戦うことができ、更なる飛躍を目指します。



将棋部



全国高文連将棋新人大会 女子個人 (岡山県)

2A 齊藤 桂

岡山県で行われる全国新人大会に参加します。初めての全国大会出場ですが、普段お世話になっている方々への感謝を忘れず、自分のベストを尽くせるように頑張ります。



アイスホッケー

国民体育大会

冬季大会 (北海道)



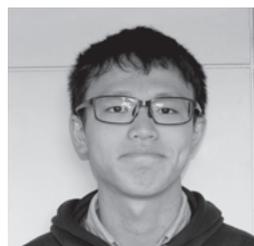
2A 小出 健士郎

私は1月30日から2月3日に北海道釧路市で行われる、第七十四回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会少年の部に、長野県代表の一員として参加してきます。ブロック予選優勝の勢いのままに、初戦突破を目指して、自分達のホッケーを全力で楽しんでいきます。応援よろしく願います。

自転車

全国選抜大会 個人ロードレース (熊本県)

シクロクロス世界選手権大会 (デンマーク)



2C 鈴木 来人

3月21日から福岡県、熊本県で行われる全国選抜大会のトラック競技・スクラッチ、ロード競技・個人ロードレースに出場します。どちらの種目でも一つでも上の順位を目指して最後まであきらめずにしっかりと走ってきたいと思っています。

また、デンマークでの世界大会でもベストを尽くしたいと思っています。



卒業おめでとう



A組 担任 勝野 幸広



みなさんのおかげで楽しい時を過ごすことができました。ここからの感謝です。いつでもいつまでも、あなたが前向きに生きていくことを応援しています。

B組 担任 大槻 智哉

みんなにはこれから先、多くの選択肢が待っています。可能性が多いがゆえに悩むこともあるかと思いますが、自分の手で希望に満ちた明るい未来を切り開いていってください。



C組 担任 有賀 政春



伊那北で出会った仲間は特別なものです。励まし合い、刺激し合いながらお互いに支え合っていってください。またみんなに合える日を楽しみにしています。



D組 担任 川口 陽司

今後、前途多難な人生が待ち受けています。しかし、得るものが多い人生でもあります。『今日頑張った者…今日頑張りを始めた者のみ…明日が来る』卒業おめでとう！



E組 担任 荒井 淳子

卒業おめでとうございます。授業や行事のたび、みなさんの個性やあたたかさに触れることができ、本当に幸せでした。もっともっと成長してくれることを期待しています。



F組 担任 百瀬 裕也

人生は学びと挑戦と成長の連続です。1日後、1分後、1秒後に、いつも、学びと挑戦と成長の機会を自ら用意して生きていってください。



GRADUATION



KUNREI

No.143

平成31(2019)年2月

編集後記

たくさんの方々のご協力をいただき、薫嶺一四三号を無事に発行することが出来ました。

四月に今年度の広報委員が集まって以来、生徒達の楽しい学校生活や行事での熱演・躍動感・感動を感じていただくために、写真の選定には力を入れながら、一同手探りで紙面作りに取り組んで参りました。今号も楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

誌面作成に当たり、取材にご協力いただいた皆様、原稿を引き受けていただいた皆様、顧問の先生、取材編集に携わった広報委員の皆様、全ての皆様にこの場を借りて改めてお礼を申し上げます。

素敵な伊那北高校の様子が、読者の皆さんに少しでも多く届いていれば幸いです。

広報副委員長 **有賀美希恵**

編集担当

平澤 由美 (1A) 溝口 祐子 (3F)
 伊澤 国晃 (1A) 小林 憲子
 上田さゆり (1F) (2D・PTA副会長)
 高橋 玲子 (1F) 原 陽子 (3F)
 唐木 美奈 (2A) 有賀美希恵 (3A)
 中山 清香 (2A) 埋橋 元
 小松いずみ (2F) (担当職員)
 宇田川のぞみ (2F) 松村 真一 (教頭)
 塩澤 歩 (3A)
 唐沢 勝芳 (3A) 写真提供
 南郷 美紀 (3F) 平澤写真館